泉州堺百人一首教訓抄
全

天和賀春
秋の風
りほの
音
昔式わらみ
我家を
家とする

和歌三神
横山人麿
山部の赤人
持統天皇
横山人麿
山部の赤人

山邊赤人
猿丸大夫

教訓三十六歌撰

中納言家持

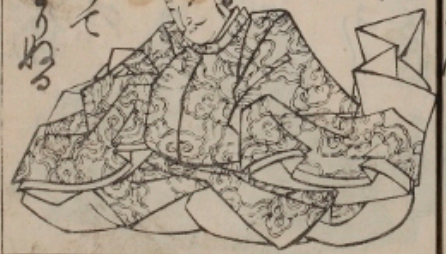
安倍仲麿

春撰法師
我庵
小野小町

輝丸
泰織賀
和国のたち
八十寿
清
人生五十年
海士の浦海

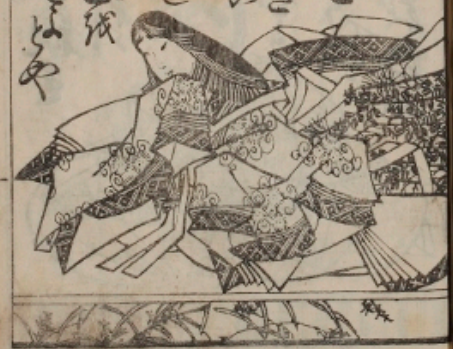
父母の
たのしめば
ほくろもやまず
すみらるる

鶏さへも
時の
ときつくる
鳥の
ほこりとぞ
なれ



陽成院
筑波嶺の
みねより
おちる
男女の川
恋ぞつもりて
ふちとなりぬる

僧正遍昭
天つかぜ
雲の
かよひぢ
ふきとぢよ
乙女のすがた
しばしとどめん

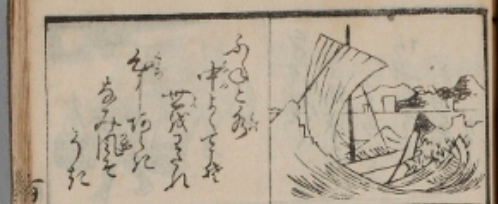


元良親王
素性法師

文屋康秀
吹からに秋の草木しをれぬれば
むべ山風と
いひしなるらん
大江千里
月見れば
ちぢにものこそ
悲しけれ
我身ひとつの
秋にあらねど

貞信公
小倉山の
ふもと
ちろ
あらし
人ひとりとびの
御幸きたん
たくさん来たる
かん月りんや
ふちきの
ふかぶ酒と
ふるくんれ
いつ月うと
人ちつひく
やみちほ
ちろ
ちろ
ちふと
ちくん
中納言兼輔
みちれちろ
つきそ
なぐ
ちる
泉川
いつ月
とそろ
ちるらん

十五



百人
十七
義経異風
きれば
ちるとも
言せん
砂の
松むしの
友なるに
紀貫之
人をいとう
ものは
ちるべ
赤染衛門
花でもうの
香をかぐる

右近
人の恋

春織笠
人の恋

年兼盛
壬生忠見

平常親孝行
仁
他人のなみだを
つゝみ
もの
ごん
義
あるひとを
仕たいもの
清原元輔
髪
みゝ
袖を
忠
中納言教忠
髪見
の
ゆ
ゆ
ゆ

義経公義経
君ぐるわ
ちゝはり
命さく
なげくを
ゲ形とあのひ
者ゝうれ
義経公弁慶
ものとゞた
仔
喰の
きゝも
ちゝと
ものゝ

童兒養育の人幹
儀同三司母
大納言公任
滝の音

女今川男解

今川ふなをゝて
自どいまーむ制
約の條く

一事のこゝろゝ
一女のこゝろ
一男は女しやくの
一ものゝ
一ものゝ
一大事ともゝ
一父母の恩を

相撲

三條院
能因法師

大納言行平卿

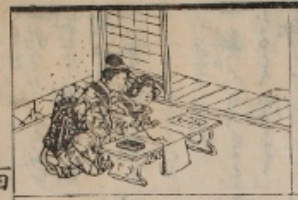
良暹法師

源頼朝卿
夢うりける
人形
陸奥の
山吉作
はるかうれしい
いのゝ枝とよと

義家基俊
弊り者きし
さらせもゞ
家伝
命をも
あられ
ちらしの
秋もいねめを

女今川

女夷給教
源兼昌
秋風に
雲の
絶間より
もれ出る月の
かげのさやけさ



道閑法師
あのひ僧
さそも
命を
あるを
うきて
絡ぬ
風なりけり

宮古屋雷蔵後世
世の中を道
こそなけ
あのひも
いる
山の桜
庵そ

義経清盛
なぐるべ
ぶろや
慶長法師
夜もすがら

[illegible]

参議雅経

みよし野の山乃秋かぜ小夜ふけてふるさとさむく衣擣なり

[illegible]

前大僧正慈円

おほけなくうき世の民におほふかな我たつ杣にすみ染の袖

女実語教 附
善悪心の鏡

善悪心鏡終

万延辛酉新板目録

兒雷也豪傑譚 三十七編 三十八編 三十九編 柳下亭種員作 一勇齋國芳画

風俗淺間嶽 十編 十一編 十二編 柳水亭種清作 一勇齋國芳画

女郎花五色石臺 八編 九編 柳下亭種員作 一勇齋國芳画

不思議塚小說櫻 初編 二編 三編 柳水亭種清作 一勇齋國芳画